

● ● ● 義務教育段階の学びの充実に向けて ● ● ●

教育庁指導部 義務教育指導課長 中嶋 富美代

令和2年度も、残すところあと1か月となりました。コロナ禍における臨時休業からスタートした今年度、各学校においては、子供たちの安全・安心に向けた日々の感染症対策や、学びを止めないための様々な教育活動の工夫等を進めていただきました。まだまだ対応が続く中ではありますが、1年間の節目に当たり、学校や区市町村教育委員会の皆様に改めて感謝申し上げます。

さて、次年度から中学校でも全面実施となる新学習指導要領では、次代を担う子供たちに、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の^{かん}涵養」、「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」を図ることが求められています。コロナ禍にあって、新学習指導要領の理念の重要性は一層高まっていると感じます。

この理念の実現に向け、東京都教育委員会は、令和3年度から新たな学力向上施策を進めてまいります。平成15年度から実施してきた都学力調査を、次年度からは、子供たちの学ぶ意欲や学び方に焦点を当てた内容として実施するとともに、調査対象を小学校4年生から中学校3年生までに拡大し、子供たちの意識や実態を継続して見られるようにします。そして、都の調査結果と国の学力調査結果とを結び付けて分析し、これまで実施してきた一人一人に応じたきめ細かな指導に加え、主体的に学習に取り組む態度等を子供たちに育むための組織的な授業改善について、新たに指定する授業改善推進拠点校での研究をベースとして推進してまいります。

子供たちが、自ら考え判断し行動することによって、豊かな人生を切り拓き明るい未来を築くことができるよう、今後も義務教育段階の学びの充実に向け、区市町村教育委員会や各学校の皆様と連携し、取り組んでまいります。引き続き、御理解・御協力のほど、よろしくお願いいたします。

掲載

内容

- 子供たちの力を伸ばす「指導と評価の一体化」を目指して
- 令和3年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」のお知らせ
- 道徳教育教材集について
- リーフレット「小学校と中学校の接続を意識した外国語の指導の充実に向けて」
- 環境教育の充実のために ～環境教育掲示用教材～
- 東京都小学生科学展のホームページ開催について
- 就学前教育と小学校教育とのより一層の円滑な接続について

東京都教育委員会のホームページ内「学びの支援サイト」



令和2年度に発行されたメール・マガジン「スクラム」は、こちらに掲載しています。

← (URL https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/learning_support.html)



YouTube内「東京都教育庁指導部義務教育指導課チャンネル」

「令和2年度 就学前教育カンファレンス」に係る動画の他に、3月には「指導と評価の一体化」や「道徳教育」に係る動画も掲載予定です。

(URL <https://www.youtube.com/channel/UC0dZqHZ8PVXmLFmMYKDBC4A>) →



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

令和3年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」のお知らせ

◆「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施します

新学習指導要領では、児童・生徒が、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにすることが求められています。

このことを踏まえ、東京都教育委員会では、令和3年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を、次のとおり実施します。

○調査実施日 令和3年9月頃

○調査対象 都内全公立小学校 第4学年～第6学年
都内全公立中学校 第1学年～第3学年
都内全公立義務教育学校 第4学年～第9学年
都内全公立中等教育学校 第1学年～第3学年



○調査内容 児童・生徒の学習意欲や学校・家庭での学習の進め方など、「学びに向かう力」等に関する内容

令和3年度の調査から、児童・生徒がパソコンやタブレット端末を活用し、ウェブ上で質問に回答する方法に変わります。

◆ 保護者向けのお知らせを作成しました

東京都教育委員会では、令和3年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」について、下図のような保護者向けのお知らせを作成しました。

このお知らせでは、保護者の皆さんに、本調査の趣旨について御理解いただくために、新学習指導要領で育む三つの資質・能力（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）や、国の学力調査と都の学力調査を活用して三つの資質・能力をバランスよく育成することなどについて説明しています。

なお、保護者向けのお知らせは、令和3年3月中旬に各学校へPDFファイルで送付します。また、東京都教育委員会のホームページにも掲載する予定です。学校ホームページへの掲載、メール配信システムによる配信、保護者会等での配布等により、保護者の皆さんへの周知に、ぜひ御活用ください。

保護者の皆さんへ
学びを支える
スクラム

令和3年度
【児童・生徒の学力向上を図るための調査】
(東京都教育委員会)のお知らせ

◆調査実施日 令和3年9月頃
(詳しくは、後日、学校からお知らせがあります。)

◆調査対象 都内全公立小学校 第4学年～第6学年
都内全公立中学校 第1学年～第3学年
都内全公立義務教育学校 第4学年～第9学年
都内全公立中等教育学校 第1学年～第3学年

◆調査内容 児童・生徒の学習意欲や学校・家庭での学習の進め方など、「学びに向かう力」等に関する内容

令和3年度の調査から、児童・生徒がパソコンやタブレット端末を活用し、ウェブ上で質問に回答する方法に変わります。

令和3年3月 東京都教育委員会
東京都教育委員会事務局総務課 電話 03-5320-6647

新しい学習指導要領で育む資質・能力とは？

新しい学習指導要領では、社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、次のような「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの力を総合的にバランスよく育むことを目指しています。

資質・能力を育むために必要な要素

- 「知識及び技能」
- 「思考力、判断力、表現力等」
- 「学びに向かう力、人間性等」

三つの力をバランスよく育むために

東京都の学力調査では、新しい学習指導要領で育む資質・能力の「学びに向かう力、人間性等」のうち、「学びに向かう力」等を中心に実施していきます。また、国の学力調査は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を中心に実施していきます。各学校では、各と面の調査結果を生かして、三つの力をバランスよく育んでいきます。

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】(東京都教育委員会)

調査対象 小学校第4学年から中学校第3学年まで
調査内容 「学びに向かう力」等を中心に調査

【全国学力・学習状況調査】(文部科学省)

調査対象 小学校第4学年及び中学校第3学年
調査内容 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」等を中心に調査

児童・生徒一人一人に合った学習・育ちを実現するためには、学校の授業だけでなく、家庭や地域の方々の理解と協力が不可欠です。学校で学んでいることについて、ぜひ、お子さんと話し合い、一緒に考えたりして楽しく学びたい。

道徳教育教材集について

東京都教育委員会では、各学校での道徳教育の充実を図り、子供たちの豊かな心を育成するため、東京都独自の道徳教育教材集を作成し、都内公立小・中学校等の全ての児童・生徒に配布しています。

道徳科の授業はもちろんのこと、他の教育活動や家庭での道徳教育でも活用できる内容になっています。



第一章 先人のことばに学ぶ

第一章には、様々な先人たちの言葉を掲載しています。古典などから引用した難しい言葉には、内容の理解に役立つ解説を付けています。

活用例 道徳科の授業の導入で提示して、取り上げる内容項目を意識させる。

活用例 学級で「今月の言葉」として掲示して、自分たちの生活を振り返る。

活用例 好きな言葉を選んで、自分の目標・指針として生活する。

成せば成る
成さねば成らぬ
何事も
成らぬは人の
成さぬなりけり

上杉 鷹山

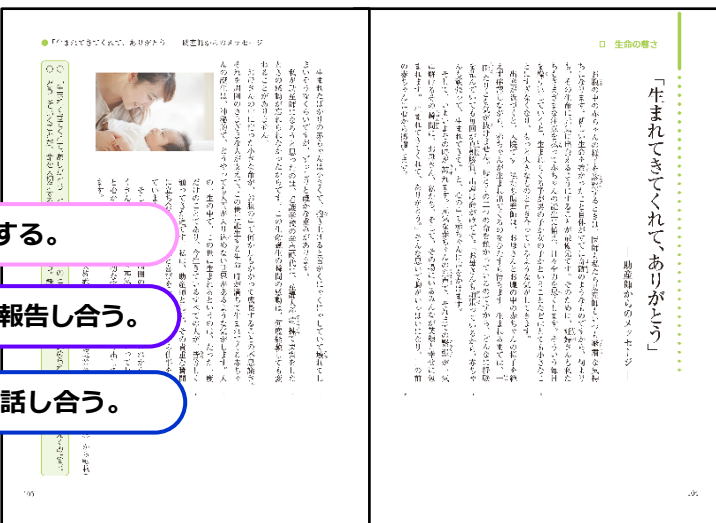
第二章 さまざまな生き方に学ぶ

第二章には、道徳科で学ぶ様々な内容について、自分を見つめたり考えたりできる読み物教材を掲載しています。それぞれの教材には、考えたり話し合ったりするための手だてとなる発問例を付けています。

活用例 道徳科の授業で、中心となる教材として活用する。

活用例 読書の時間などに活用し、読んで考えたことを報告し合う。

活用例 家庭で保護者と一緒に読んで、考えたことを話し合う。



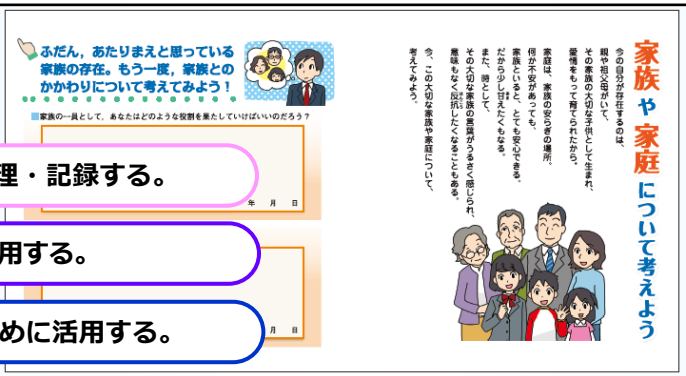
第三章 自分を見つめて学ぶ

第三章には、子供たちが日常生活や体験などを振り返り、自分自身を見つめ直すことのできる資料やワークシートを掲載しています。

活用例 道徳科の授業の終末で記入し、学んだことを整理・記録する。

活用例 学級活動や学校行事などで自分を振り返る際に活用する。

活用例 授業で考えたことを家庭で保護者と振り返るために活用する。



リーフレット「小学校と中学校の接続を意識した外国語の指導の充実に向けて」

東京都教育委員会では、小学校と中学校の接続を意識した外国語の指導の充実に向け、学習指導要領（平成29年告示）外国語科の趣旨を踏まえた授業改善のポイントや、小学校・中学校の円滑な接続に向けた留意点、学習評価等について紹介するリーフレットを作成しています。3月末に都内公立小学校・中学校等に配布する予定です。

リーフレットの内容（予定）

1 小・中学校学習指導要領（平成29年告示）外国語科における改訂の要点

- 各学校段階の学びを接続させる。
- 「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にする。

2 学習指導要領の趣旨を踏まえた指導のポイント

- 言語活動の充実（言語活動への理解を深める。）
- 小・中連携の充実（各学校段階の学びを接続させる。）
- 単元構成の工夫（外国語を使って何ができるようになるかを明確にする。）

3 各学校段階の接続（小・中連携）を通じた指導の充実

- 小・中の円滑な接続に向けて
 - ・ **小・中連携の三つの視点**（学習内容の共有、指導方法の共有、学習評価の方向性の共有）
- 小・中の円滑な接続のためのポイント
 - ・ 小学校における「読むこと」「書くこと」の指導について（文字の取扱いと留意点）
 - ・ 中学校における言語活動等の取扱い、小・中接続の視点を踏まえた「書くこと」の指導の留意点
- 学校段階の接続（小・中連携）の状況（「英語教育実施状況調査」から）
 - ・ **小・中連携の三つの形態**（情報交換、交流、小・中連携したカリキュラムの作成）
- 移行期間を踏まえた小・中の円滑な接続（小学校における外国語活動・外国語科の授業時数）
- 小・中連携の取組事例

- 事例① 交流の事例（北区立王子桜中学校・王子小学校・東十条小学校の取組）
- 事例② 小・中連携したカリキュラム作成の事例（西東京市の取組）

4 指導と評価の一体化に向けて

- 各教科等における資質・能力の三つの柱の関係
- 指導と評価の一体化に向けた単元構成の工夫
- 学習評価の方法（「表現の領域」「理解の領域」における観点別学習状況の評価）
 - ・ 観点別学習状況の評価について（中学校）
- 単元の目標・評価規準の例（小学校・中学校「話すこと [やり取り]」）

コラム

- 小学校・中学校双方で共有する「学習内容」「指導方法」にはどのようなものがあるか
- 「表現の領域」及び「理解の領域」と3観点との関係（中学校）
- 各観点の評価情報を得る方法（中学校）

環境教育の充実のために ～環境教育掲示用教材～

児童・生徒に、環境に対する豊かな感受性や探究心、環境に関する思考力や判断力、環境に働き掛ける実践力など、持続可能な社会を構築していくための資質・能力の育成を図るために、持続可能な開発のための教育（ESD）や持続可能な開発目標（SDGs）、環境教育指導資料（東京都教育委員会 令和2年3月）との関連を踏まえた環境保全に関する具体的な内容を示す掲示用教材・ワークシート・指導資料を作成し、都内全公立小・中学校等に配布しました。また、授業で電子黒板等に提示できるよう、図表の電子データをホームページ上で公開しています。環境教育の充実に御活用ください。



号	配布時期	4種共通テーマ	それぞれの掲示用教材のテーマ		
1号	9月配布	SDGs全体	小学校	低学年	自然を大切に、世界の目標にチャレンジ！
				中学年	水から考える環境問題と持続可能な開発目標
				高学年	環境問題とSDGs（持続可能な開発目標）
			中学校	環境保全でSDGs（持続可能な開発目標）を実現しよう	
2号	12月配布	SDGs 11 住み続けられるまちづくりを	小学校	低学年	わたしたちも生きものも すみやすい場しょ
				中学年	わたしたちも生きものも共に住み続けられる街づくり
				高学年	私たちも生きものも共に住みよい自然豊かな街づくり
			中学校	住みよい街づくりと自然環境の保全～世界自然遺産～	
3号	2月配布	SDGs 12 つくる責任 つかう責任	小学校	低学年	食べのこしはもったいない すてる前に できること
				中学年	ごみをへらすためにわたしたちにできること
				高学年	食品ロスをなくすために私たちにできること
			中学校	環境負荷を軽減することのできる消費者としての行動	

○環境教育掲示用教材

URL <https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/environment/bulletin.html> →



○持続可能な地球を目指して -東京都環境教育指導資料-

←URL https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/environment/instructional_materials.html

東京都小学生科学展のホームページ開催について

令和2年度東京都小学生科学展のホームページ開催



代表児童作品



東京都小学生科学展は、全都の理数好きの小学生が、自ら決めたテーマについて深く研究することで理数についての資質・能力を高め、その成果を発表することを通して、理数好きの児童を更に増やすことを目的として開催しております。

今般の新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、日本科学未来館での開催は中止いたしました。ホームページで作品を公開しております（4月以降は縮小して掲載予定）。今年度は、各区市町村及び特別支援学校小学部から代表作品が1点ずつ選ばれ、全63点が集まりました。発想豊かな研究の成果をぜひ御覧いただき、今後の自由研究の指導の参考として、御活用ください。

URL https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/science_exhibition_r2.html



就学前教育と小学校教育とのより一層の円滑な接続について

東京都教育委員会では、モデル地区として指定した荒川区、福生市、国立市と合同で、次の取組を推進しています。

荒川区：5歳児から小学校低学年までをひとまとまりとした教育課程の研究・開発及び検証

◆ 町屋幼稚園・第七峡田小学校における取組

- ・ 荒川区が指定したモデル園・校において実践・検証を進める教育課程の研究・開発に取り組んでいます。
- ・ モデル校には、幼児・児童の共有スペースである「ななはけラボ」を設置し、指導計画の作成や環境の整備を進めています。



ななはけラボの様子

◆ 荒川区全体に向けた取組

- ・ 令和元年度に荒川区で作成した「5歳児から小学校第2学年までの3年間をひとまとまりとした教育課程」を基に、保育者と小学校教員が具体的な協議を重ねて指導案を作成し、研究保育・授業を公開しました。
- ・ 区内の教職員を対象に研修会を開催し、「学びの接続」を図るための取組等を周知しました。

福生市：学びに向かう力の育成に関する内容の研究・開発及び検証

◆ 令和2年度 幼保小連携推進委員会

- ・ 市内の各就学前施設・小学校から1名を委員として任命し、新入学児童の情報交換、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に関する講演、スタートカリキュラムの内容についての協議等を行いました。
- ・ 保育者と小学校教員が互いの教育について、理解を深めました。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に関する講演の様子

◆ 幼児期の保育環境評価スケール（ECERS）調査

- ・ 慶應義塾大学と連携し、福生市内の就学前施設を対象に、保育の質に関わる様々な側面から総合的かつ包括的な調査を実施しました。
- ・ 調査後は大学からフィードバックがあり、就学前施設が保育活動を見直す機会となりました。

国立市：教育と福祉の連携による幼児の資質・能力の育成に関する研究・開発及び検証

◆ 国立市幼保小連携推進委員会

- ・ 教育委員会と子ども家庭部が連携し、国立市内の就学前施設と公立小学校の連携や接続の現状を把握するための調査を実施しました。
- ・ 調査結果を基に、国立市独自のスタートカリキュラムの作成に取り組んでいます。

◆ 幼保小連携推進研修会

- ・ 東京大学の汐見 稔幸 名誉教授を講師にお招きし、市内の保育者や小学校教員を対象にした研修会を実施しました。
- ・ 汐見先生からは、保育者と小学校教員が互いの施設や学校を訪れ、幼児や児童についての情報交換を日常化して、それぞれの保育や教育の実際を理解するなど、具体的な連携方法について御指導いただきました。



幼保小連携推進研修会の様子

★「令和2年度 就学前教育カンファレンス」に係る動画を、東京都教育庁指導部義務教育指導課のYouTubeチャンネルに掲載しています。就学前教育と小学校教育の円滑な接続に関する説明や令和元年度の荒川区の取組等の動画が掲載されております。ぜひ御覧ください。